

地域おこしのスペシャリスト「地域活性化伝道師」の活用について

菅野 恭子



〔質問〕市長は、所信表明において「市民の笑顔あふれる白石」をつくり上げていきたい旨を述べているが、この実現には、各地区・地域の活性化が重要な一つと考える。

本市の各地域には、それぞれの歴史・文化・産物・景観など、多くの貴重な資源が存在する。これらをさまざまに活かし、その地域の活性化につなげていくことは、そこに住む方々の笑顔に連動していくものである。内閣府に「地域活性化伝道師派遣事業」がある。この事業は、地域おこしのスペシャリストが、地域の活性化

ちづくりの専門家を講師とし、地域活性化に向けたワークショップを開催している。

また、上原自治会の協力により、楽しく農業を学ぶ「親子で田んぼワクワク講座」を開催し、先日、収穫祭が行われており、市民主体の地域おこしが活性化しつつある。

現在、国の支援などを受けながら、地域活性化・地方創生へ向けて、さまざまな取り組みを市民とともに着々と進めている。

地域活性化伝道師派遣事業についても、幅広い知見やノウハウを吸収できる有意義な事業の一つと考え、必要があれば招致を検討していきたいと考える。

〔答弁〕【市長】現在、各地域で地域おこし・地域活性化の取り組みを行っている。

小原・深谷地区においては、一般財団法人「地域活性化センター」の助成金を活用し、ま

農産物のブランド化について

菊地 忠久



〔質問〕今年度、ササニシキ復活プロジェクトや白石三白野菜等の生産が行われた。

本市の農産物のブランド化について、その取り組み状況を伺う。

〔答弁〕【市長】生産する白石米や農産物の特産品の品質と、生産意欲の向上を図るため、宮城県大河原農業改良普及センターや各関係機関と連携した栽培講習会や、生産者の顔の見える農産物の販売活動、チラシ・パンフレットやホームページの活用により情報発信を行っている。

〔質問〕これらの取り組みは、国の地方創生交付金事業として認められた。ブランド化を

成し遂げるには、長い期間とお金がかかるものと理解している。

そこで、国の交付金事業が終了した場合、本事業はどのように考えているのか伺う。

〔答弁〕【市長】この事業は、稼働力を身につけた地域が、地域として自立・持続していくことを目指すものである。将来的には、支援を必要としない、しっかりととした組織づくりと持続可能な安定経営に向けた自立を促していきたい。

この事業は初年度であり、長期的なものはその都度考えていきたい。

〔質問〕各地でブランド化が行われているが、どのように差別化を図り、推進していくのか伺う。

〔答弁〕【市長】明確なマーケティング、ブラ

ンディングが必要であるが、高品質を維持することが大前提である。

高品質な農産物の生産に務めながら、積極的にPRを行い、白石ブランドの確立を図っていきたい。

◎病児・病後児保育について

〔質問〕白石市子ども子育て支援計画では、平成30年度から病児・病後児保育事業を行う予定である。

そこで、現在の計画と今後の見通しについて伺う。

〔答弁〕【市長】現時点で、具体的な計画はないが、事業計画作成のため、病児・病後児保育に特化したニーズ調査を行い、実態に即したニーズの把握に努めていきたい。

基本的な方針としては、平成30年度からの実施に向けて準備を進めていきたいと考えている。